

研究活動報告

第78回数理社会学会大会

第78回数理社会学会大会 (JAMS78) は、2025年3月13日 (木)、14日 (金) の2日間、青山学院大学相模原キャンパスを会場として開催された。会員数に比して、大会での報告数が多いことがこの学会の特徴であるが、本大会はその傾向がますます顕著であり、自由報告 (口頭発表) は19件、萌芽的セッション (ポスター発表) の件数は70にものぼった。

国立社会保障・人口問題研究所からは、以下の所員が報告を行った。

- ・ 泉田信行・藤間公太 (京都大学大学院) 「児童虐待における記録のあり方の一検討～障害記載状況の基礎的分析から～」 (萌芽的セッション)
- ・ 吉田航 「不平等研究に対する組織的アプローチの意義」 (研究活動委員企画シンポジウム)

数理社会学会の特徴に、若手・中堅を中心とする研究者が、新しく多様な分析手法を紹介し、それに関する議論が活発になされる点がある。今回の大会でも、萌芽的セッションの熱気にその特徴がよく表れていた。また、研究活動委員企画シンポジウム「階層研究における新たな説明の可能性に向けて：地位構造とその決定過程を問い直す」では、オーソドックスな階層研究における (潜在的な) 陥穽について、筆者を含む3件の報告がなされ、活発な議論がその後に続いた。

今回の JAMS79 は、2025年夏に関西学院大学で開催予定である。

(吉田 航 記)

神戸大学 招待講演

2025年4月26日、神戸大学で開催された第10回国際ワークショップ「Biomathematics Modelling and Its Dynamical Analysis」において、「Evolution and population dynamics through stochastic processes」という題目で招待講演を行った。本講演では、進化と個体群動態を結び付ける数理的視点として、確率過程に基づく人口モデルの理論を紹介した。特に、マルコフ過程や分岐過程を用いた漸近挙動の解析を通じて、進化的安定戦略や系統的な繁殖構造を記述できることを示した。国際的な聴衆の前で、確率論的枠組みが生物学における多様な問題解決に貢献し得ることを強調し、参加者からは他分野への応用や新たな共同研究の可能性について積極的な意見交換が行われた。本講演は数理生物学の国際的展開を示す重要な機会となった。

(大泉 嶺 記)

日本人口学会第77回大会

日本人口学会第77回大会は、2025年6月7日 (土)～6月8日 (日) の2日間、福岡大学 (七隈キャンパス (福岡市)) を開催校として、対面形式で開催された。121名が参加し、活発な発表と討論が行われた。

第1日にはシンポジウム「健やか100年時代をめざす人口学」および「地域人口論の新潮流—小地域人口統計の整備とGISの発展を契機として—」と題した会長講演 (井上孝会長 (青山学院大学)) が行われた。また大会前日には「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー：地域医療とGIS」

が開催された。大会プログラムは以下の通りである。

大会前日 2025年 6 月 6 日（金）

第 9 回「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー：地域医療と GIS」

<組織者> 井上 孝（青山学院大学）・小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

<座長> 丸山 洋平（札幌市立大学）

- 1) GIS を用いた救急隊配置効果の推定 長谷川 普一（新潟市）
- 2) 住民主体で運営する介護予防事業の開発の過程で実施した地理情報システムを用いた評価 平井 寛（山梨大学）
- 3) 無料で使える GIS を用いたオンライン GIS リカレント講座の実践 川瀬 正樹（広島修道大学）
- 4) GIS を援用した全国がん登録データの小地域別分析 草野 邦明（群馬大学）・片山 佳代子（同）・奥貫 圭一（同）

第 1 日 2025年 6 月 7 日（土）

企画セッション 3 国民移転勘定（NTA）・国民時間移転勘定（NTTA）：データ及び最新研究事例の紹介

<組織者> 福田 節也（国立社会保障・人口問題研究所）

<座長> 松倉 力也（日本大学）

- 1) 趣旨説明－NTA・NTTA の概要とデータについて 福田 節也（国立社会保障・人口問題研究所）
- 2) NTA を通して見るアベノミクス期における変化－2014年および2019年の日本の NTA データを用いた分析 鈴木 貴士（国立社会保障・人口問題研究所）・西村 仁憲（同）・福田 節也（同）
- 3) NTA データを用いた台湾の少子化分析 謝 餘慶（日本大学）
- 4) 健康と教育が切り開く成長の未来：NTA を活用したアジア 4 カ国における人口配当 松倉 力也（日本大学） マイケル アブリゴ（フィリピン開発研究所）
小川 直宏（アジア開発銀行研究所） 澤田 康之（東京大学）
- 5) NTTA からみる日本のジェンダー 福田 節也（国立社会保障・人口問題研究所）

テーマセッション 1 出生への歴史文化的要因の影響：2026年ひのえうまを前にして

<組織者・座長> 小谷 真吾（千葉大学）

<討論者> 津谷 典子（慶應大学）

- 1) 1966年丙午による期間/コホート出生力への人口学的影響 原 俊彦（日本医療大学）
- 2) 丙午と出生行動：前近代東北町村における実証分析 黒須 里美（麗澤大学）

自由論題報告 A

A-1 統計

<座長> 鎌田 健司（明治大学）

- 1) 令和 7 年国勢調査の円滑かつ確実な実施に向けて 中村 英昭（総務省統計局）
- 2) 政府統計における行政記録情報活用の可能性の検討－介護サービス施設・事業所調査の事例から－

中村 真理子（国立社会保障・人口問題研究所） 小島 克久（城西国際大学同）

南 拓磨（国立社会保障・人口問題研究所）

3) 診療報酬明細書（レセプト）分析から見た長崎県壱岐市の医療動向について

石田 晋太郎（福岡大学） 藤居 貴子（同） 阿部 真紀子（同）
川添 美紀（同） 前田 俊樹（同） 吉村 力（同） 有馬 久富（同）

ランチョンセミナー 「家庭血圧測定のすすめ」

<共催> オムロンヘルスケア株式会社

<座長> 井上 孝（青山学院大学）

<演者> 有馬 久富（福岡大学）

公開シンポジウム 「健やか100年時代をめざす人口学」

<組織者・座長> 有馬 久富（福岡大学）

- 1) 超高齢化・人口減少社会の健康について考える 林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所）
- 2) 健康寿命延伸のために 草野 洋介（西九州大学）
- 3) 健やか100年人生をささえる血圧管理 有馬 久富（福岡大学）
- 4) 睡眠の知識をつけて、日本の人口増加に繋げよう！ 吉村 力（福岡大学）
- 5) 人口減少時代の健康なまちづくり 向原 茂明（長崎県壱岐病院）

会長講演

地域人口論の新潮流—小地域人口統計の整備と GIS の発展を契機として—

井上 孝（青山学院大学）

第2日 2025年6月8日（日）

企画セッション2 「地域別将来人口推計の意義と課題」

<組織者> 小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所） 西岡 八郎（元・国立社会保障・人口問題研究所） 江崎 雄治（専修大学）

<座長> 小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

<討論者> 井上 孝（青山学院大学） 長谷川 普一（新潟市）

- 1) 地域別将来推計人口からみた地域の将来像 江崎 雄治（専修大学）
- 2) 出生仮定の考え方と課題 山内 昌和（早稲田大学）
- 3) 死亡仮定の設定と課題 菅 桂太（国立社会保障・人口問題研究所）
- 4) 人口移動仮定の設定と課題 小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
- 5) 地域別将来推計人口の政策への活用例と今後の展開可能性 藤井 多希子（国立社会保障・人口問題研究所）
- 6) 地域別将来人口推計の発展と課題 高橋 真一（神戸大学・名誉）

自由論題報告B

B-1 家族・結婚

<座長> 永瀬 伸子（大妻女子大学）

- 1) 近世東北農村における地域と世帯の経済状況と人口行動

- 津谷 典子（慶應義塾大学） 黒須 里美（麗澤大学）
- 2) 「人口動態調査」における婚姻と離婚の届出遅れ 余田 翔平（東京大学）
 - 3) 父親の関わりと子どもの家族形成意識 水落 正明（関西大学）
 - 4) 育児時間が子どもの学力に与える影響
- 西村 智（関西学院大学） 打越 文弥（ハーバード大学）
- 5) 移動経験と家族形成に対する考えとの関係 丸山 洋平（札幌市立大学）

B-2 労働

<座長> 水落 正明（関西大学）

- 1) 出生率の低下は日本の男女間賃金格差縮小を説明するか？
吉田 航（国立社会保障・人口問題研究所）
- 2) 配偶者の長時間労働はもう一方の配偶者の well-being にどのような影響を及ぼすのか
佐藤 一磨（拓殖大学）
- 3) 男女賃金格差の変化：賃金構造基本統計調査を用いて 永瀬 伸子（大妻女子大学）
- 4) 非婚同居の選択における男女賃金格差の役割
金 濬熒（韓国科学技術院） 丸山 士行（大阪大学） 杨 哲（遼寧大学）

自由論題報告 C

C-1 死亡

<座長> 稲葉 寿（東京学芸大学）

- 1) 2020-22の COVID-19流行に伴う死亡動向の変化の人口学的解析
岡田 雄大（京都大学） 西浦 博（同）
- 2) 2009～24年の月別死亡からみたインフルエンザ・COVID-19超過死亡
逢見 憲一（国立保健医療科学院）
- 3) 新型コロナウイルス感染症拡大以降における死亡率の期待値と実績値の乖離分析
石井 太（慶應義塾大学） 別府 志海（国立社会保障・人口問題研究所）
菅 桂太（同） 岩澤 美帆（同）
- 4) 2020年以降の死亡数の変動と関連事象
岩澤 美帆（国立社会保障・人口問題研究所） 別府 志海（同）
- 5) 新型コロナウイルス感染症の複合死因分析：2020～23年
別府 志海（国立社会保障・人口問題研究所）

C-2 政策

<座長> 佐藤 晴彦（平成国際大学）

- 1) 民主化と少子化対策の効果—国際比較に基づく分析— 増田 幹人（駒澤大学）
- 2) 公的年金財政のマクロ計量モデルによる分析
堀口 侑（慶應義塾大学・院） 佐藤 格（国立社会保障・人口問題研究所）
増田 幹人（駒澤大学） 石井 太（慶應義塾大学）
- 3) アジアの人口高齢化と年金対応 可部 繁三郎（福井工業大学）
- 4) 日本における世代間所得移動の推移 四方 理人（関西学院大学）

ランチョンセミナー 「睡眠時無呼吸症候群について」

<共催> 帝人ヘルスケア株式会社
<座長> 有馬 久富（福岡大学）
<演者> 吉村 力（福岡大学）

ランチタイム国際交流会

<主催> 国際交流委員会

企画セッション1 「人口減少下における農業と農漁村」

<組織者> 衣笠 智子（神戸大学）

<座長> 衣笠 智子（神戸大学）

- 1) 経済学的観点からの人口と農業の関係 衣笠 智子（神戸大学）
- 2) 過疎地域における地域資源の管理不全と移住者を含むよそ者のかかわり―連携と関係性に基づく地域資源管理体制の再構築に向けて―
衛藤 彬史（兵庫県立人と自然の博物館）
- 3) 離島の漁業における人材育成の課題と高齢化への対応 渡部 鮎美（青森公立大学）
- 4) 農家の将来の農業規模と継続意思に関する考察 安田 公治（青森公立大学）

自由論題報告D

D-1 人口移動

<座長> 山内 昌和（早稲田大学）

- 1) コロナ禍における人口移動の変化とその要因―「第9回人口移動調査」の結果による分析―
中川 雅貴（国立社会保障・人口問題研究所） 小池 司朗（同）
- 2) 多拠点居住の量的把握―第9回人口移動調査の結果から―
林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所）
- 3) 配偶関係から見る地域人口移動 湊 麻紀子（神戸大学・院）
- 4) 出生後の人口移動が0～4歳人口の変動に与える影響―指標の検討と市町村単位の分析―
貴志 匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

D-2 人口モデル・応用

<座長> 林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 結婚による人口再生産の数理モデル 稲葉 寿（東京学芸大学）
- 2) 死因別死亡率と幸福度指標の関連性の評価分析と考察 井川 孝之（明治大学）
- 3) わが国における自衛隊員の人口動態の捕捉と状況把握 西浦 博（京都大学） 樊 夢麟（同）
- 4) 福島県浜通り地域における市郡別将来人口推計の試み
久井 情在（国立社会保障・人口問題研究所） 貴志 匡博（同）
藤井 多希子（同） 菅 桂太（同） 小池 司朗（同）

自由論題報告E

E-1 出生1

<座長> 福田 節也（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 20世紀末の大学生における性的行為の関連要因：異性・同性・セルフ 小島 宏（早稲田大学）
- 2) セネガルとケニアの出生率近成要因，2003-2023 大橋 慶太（国連人口基金）

- 3) 香港における1970年代・1980年代の出生率低下の要因分析—婚姻法および相続法改正の影響—
梁 凌詩ナンシー（日本体育大学）
- 4) 台湾の出生と結婚におけるテンポ効果
松倉 力也（日本大学） 謝 餘慶（同）

E-2 出生 2

<座長> 黒須 里美（麗澤大学）

- 1) 日本女性における不妊治療と仕事の両立
萩原 里紗（明海大学）
- 2) 岡山県奈義町の高い出生力に関する人口学的分析
鎌田 健司（明治大学）
- 3) 1995年から2023年の日本における結婚出生力の経時変化
小西 祥子（東京大学）

（岩澤美帆 記）

2025年度組織学会研究発表大会

2025年度組織学会研究発表大会は、2025年6月21日（土）、22日（日）の2日間、九州大学伊都キャンパスを会場として開催された。組織学会では年2回の学会大会が開催され、例年6月に開催される研究発表大会は、院生も含め、各研究者が広く組織にかかわる研究報告を行い、活発な議論が展開される。今回も、2日間で計82件の報告が行われた。

国立社会保障・人口問題研究所からは、吉田が「日本企業におけるフレキシブル施策導入の規定要因—制度的同型化に着目して—」という報告を行った。この報告は、厚労科研プロジェクト「ポストコロナ時代における人口動態と社会変化の見通しに資する研究」の一端であり、2000年代末からコロナ禍を含む2023年までの期間に、テレワークなどのフレキシブル施策が企業間でどのように導入されたのかを検討した。フロアからは、理論と分析の整合性や効果の企業間差異についてのコメントがあり、研究の進展に向けて有意義な示唆を得た。

個人的には、組織学会の学会賞である高宮賞受賞式とその後続く受賞者セッションの内容にとっても感銘を受けた。今年は、論文2件（横田一貴氏、中園宏幸氏・長谷部弘道氏）、書籍1件（森永雄太氏）と豊作の年であったが、どの受賞者報告にも、各研究者の「色」が出ており、フロアからも「感動した」との感想を数多く耳にしたセッションであった。

次回は2025年秋に年次大会が青山学院大学で開催予定である。 （吉田 航 記）

第3回アジア・太平洋地域住民登録及び人口動態統計（CRSV）閣僚級会合

2025年6月24日（火）～26日（木）に、タイ・バンコク国連会議場（ESCAP）にて、第3回アジア・太平洋地域住民登録及び人口動態統計（CRSV）閣僚級会合が開催された。CRVS（Civil Registration and Vital Statistics: 住民登録及び人口動態統計）は、全ての人の出生、死亡を登録し、それに基づいた統計を作成することであり、CRVSの達成は社会のガバナンス向上のために必要不可欠であるが、日本では当たり前であるこのCRVSが未整備の国はまだ多い。このような状況を鑑みて、すべてのこどもの出生登録を行うことは、SDG16.9に位置付けられ、アジア太平洋地域では、2014年に閣僚宣言を採択し、10年間ですべての人がCRVSの恩恵にあずかるよう目標を掲げた。本会合はその評価会合に当たるもので、2021年の第2回会合に続いて、第3回目の閣僚級会合となる。